



斉藤喜志雄 議員
(拓政会)

問

幕別町は今年度から公立幼稚園と6保育所で、むし歯予防のひとつとして集団フッ化物洗口を導入した。このフッ化物洗口によるむし歯予防は、フッ素のもつ毒性から賛否両論があり、道の条例制定にあたっては付帯意見（保護者への説明と同意）が確認されている。

①なぜ、集団フッ化物洗口を実施するのか。（必要性）②この実施により、町はどのような効果を期待しているのか。③フッ化物洗口には危険はないのか。（安全性）以下伺う。

町長 ①北海道は条例に基づきフッ化物洗口の実施を推進しており、本町も帯広保健所の支援のもと実施している。集団で実施することで継続的にむし歯にならない環境を維持することにつながり、その効果は大きいものと考え、集団フッ化物洗口に取り組んでいる。

問 なぜ集団フッ化物洗口をするのか
答 むし歯にならない環境を維持することにつながり効果は大きい

②フッ化物洗口を行うことにより、子供の歯のエナメル質を強化し、むし歯予防効果が最も高く、安全性や経済性にも優れていると言われているため、町として取り組むだところである。

③フッ化物洗口マニュアルを活用し、従事する職員を対象に研修を繰り返し開催し、子どもたちに対しても水を使ったうがいの練習も十分に行った上で実施をしたところであり、安全対策には今後とも十分に配慮して取り組みたい。

問 教育現場の勤務条件などの改善は
答 各種の取り組みにより教職員の負担軽減に努めている

問 教職員が保護者の期待に応え、児童生徒の可能性を育むためには研修の機会が保障されていないかならない。また、児童生徒とのふれあいの時間を増やし、健康で子ども達と接するため

にも時間外勤務の縮減が求められている。

①教特法の精神を踏まえ、研修機会の拡大と引き換え校外研修を積極的に進めるべきでは。②資質向上の観点から、研修旅費の増額を図るべきでは。③道教委の通知を踏まえ、勤務時間の適正な管理と時間外勤務の縮減など、どのような改善策を講じてきたか。以下伺う。

教育長 ①研修の機会の場の確保・拡大を図るとともに、校長会議などを通して、校外研修に限らず、各種の研修に積極的に取り組むよう啓発していきたい。

②自治体を取り巻く財政環境が厳しい中ではあるが、本年度は前年度より若干の増額を図ったところであり、今後も必要な予算の確保に努めていきたい。

③業務が特定の教職員に集中しないための業務分掌の見直しや会議

の効率化、定時退勤日の設定、パソコン等を利用し各種データの共有、報告書等の様式の簡略化など事務の効率化も図り、教職員の負担軽減に努めている。

再質問 本町の幼児期における子どものむし歯保有率はどうなっているか。また、実施にあたって保護者への説明は。

答 平成22年度の3歳児検診では、0・78本である。保護者へは説明をきちんと行い対策を重ねてきた。



フッ化物洗口をしている子どもたち（中央保育所）